



### 病院に入院して…なぜ病状が悪化するのだろうか…？

### 第2弾

Aさん 94歳は、口から食べ物が入らなくなり、胃ろうを造設して8年になる。その間、訪問介護・看護等から関わりはじめ、その後 看護小規模多機能型居宅介護「ケアホーム希望」のサービスを利用して約10年。

三男夫婦と夫の4人暮らしで、夫が主に介護をしていたが、2年前に癌で先立たれ、三男夫婦が就労しながら介護をしていた。

夫も三男夫婦もAさんが寝たきりになり、胃ろうからの栄養や水分の注入、吸引が頻回で、寝不足になることも度々あったが、愛情をもって介護をしてきた。

Aさんが体調を崩し、入院をすると褥瘡ができたり、認知症が進んでしまうことがあったため、家族は心配で極力入院させることを拒んだ。

Aさんは寝たきり状態ではあったが、家族も吸引や体位変換を頻回に行い、肺炎を起こしたり、褥瘡がひどくなることなく、今回の胃ろう交換で入院するまでは在宅での生活も順調に経過していたのだが…。

胃ろう交換のため数日間入院をすると、退院時にはやはり褥瘡ができており、発熱やお腹が張っていたりと、症状がみるみるうちに悪化していった。

「胃ろう交換の入院でなぜこんなに症状が悪くなるのだ」と、息子は激怒した。往診医の指示にて抗生剤の点滴等で1日に2回、訪問看護師がケアを行った。更に息子は会社を休み、一生懸命ケアをしていた矢先夜中に急変し呼吸困難となった。

往診医は夏休み中であり、「当直医が担当する」と言われると、息子は救急車を呼び「胃ろう交換をした〇〇病院には母をお願いしたくない！別の病院へ搬送してほしい」と懇願した。市内の病院に搬送され救急処置をするも朝方、息子に見守られ、天国へと旅立って逝った。

息子と共に帰宅するとその顔は穏やかで、とてもやさしく、息子を労わるようであった。数日後、無事に葬儀を終えたが、息子の母を亡くした強い憤りは増すばかりで、深い悲しみで食事もうが通らないほどである。

息子は今でも「病院に行かなければこうなっていなかった」と。後悔が残るばかりであった。

Aさん、息子を天国からも優しく見守っていてね。

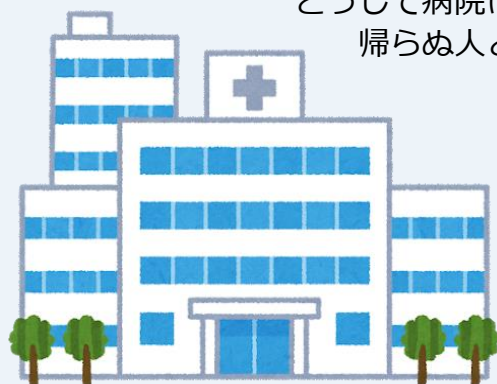
前回の『希望ニュース』で、ペースメーカーの電池交換のために入院したMさんは、誤嚥性肺炎となり、未だ退院の目途が立たない。

どうして病院に入院して、別の病状で病がひどくなり、退院できなかつたり、帰らぬ人になってしまうのだろうか。

一言で「高齢者だから何が起きても仕方がない」と言わないでほしい。もし自分の身内であったとしたら…そう想えるだろうか。

私たち在宅医療に関わる一人としてとても残念なことである。

「高齢者をもっと理解し、精神的にも病についてもきちんと診れる医療であってほしい」と願いたい。



# 今年も“特別な夏” 新型コロナウイルスに負けるな!

新型コロナウイルスの感染者が増加する中、今年もコロナに打ち勝つことが最優先の“特別な夏”として、小池都知事は、「感染拡大特別警報」に当たる警戒が必要だとの認識を示した。

毎年楽しみにしていたぶどう狩りも中止せざるを得ない状況となり…

それでも“**コロナウイルスに負けるな!**”を合言葉に

3密を避け、ソーシャルディスタンスを守り、ぶどう園より美味しい“シャインマスカット”を代表の金沢がたくさん買ってきたので、ぶどう狩りの雰囲気『ケアホーム希望』で楽しみ、みんなで美味しくいただきました!

## 今年のぶどう狩りは… “ぶどう狩り風!?”



まあ〜!  
美味しそうなぶどうが  
いっぱいね!

『ケアホーム希望』の  
ゴーヤカーテンの前で雰囲気  
を楽しみました!

僕には  
赤ワインを  
注いでくれよ

大きい立派な  
ぶどうねえ〜

### のぞみ 日誌 希望

介護の道に入り、特別養護老人ホームやデイサービスで介護に携わり早10年になります。一人一人に寄り添い、質の高い支援をしたい。そのためには自分自身のスキルアップが必要だと感じ、看護小規模多機能型居宅介護「ケアホーム希望」に入職しました。今までに見たこともない重症な利用者さんや亡くなる利用者さんを看護師と介護職が一緒になり情報を共有化し、本人、家族に寄り添い支えていることを目の当たりにして、毎日が勉強です。

